

「不斷に拡大再生産しない資本はつぶれる」

資本主義の奴隷を認める動労革マル松崎

松崎講演(%)を暴露・断罪する!

鉄労の鉄道労連脱退で情勢は大きく動きだした。今回、鉄労が脱退する理由として、六月十日に松崎が東日本本社で行った講演で鉄労をのしっていることをあげている。その内容たるや、ファシスト松崎ならではの発言が相次いでいる。徹底的に断罪しなければならぬ。

資本の奴隷を自認する松崎

まず、冒頭松崎は「従来の労使協調はマチガイ。御用組合を軽蔑している」と、従来の御用組合を否定したうえで、「不斷に拡大再生産しない資本はつぶれる。拡大再生産を資本の法則、会社運営の基礎ととらえ、外に向かって発展する会社」と、完全に資本主義の奴隷であることを自認している。

そして、自らはファシスト労働運動を進め、資本主義が最終的に行きつく戦争をも率先して担う労働組合＝産業報国会を創りあげようとしているのだ。動労革マルの道は戦争への道なのだ。

小集団活動で統制狙う

さらに、「会社の基本的な考え方を小集団活動を通じて豊富化する。自発性を引きだすことは教育」と、小集団活動を通じて労働者としての意識をぬぐいさり、「愛社精神」のもとに労働者を統制しようというのである。

「タダ働き」や一人四五万円のノルマ、さらに、当局主催の「イベント」などあらゆる角度から労働者に攻撃をかけ、屈服させようとしているのだ。

しかし、革マル松崎がいくら資本の奴隷になり、率先して戦争への道を掃き清めようとしたところで、国労、動労千葉、動労総連合が現に存在し、意気高く闘いぬいているという現実の前に松崎は完

全に恐怖しているのだ。実際、松崎は

「四月一日はクリアーした。無血革命です」と言っておきながら「国鉄改革には大きな課題がある。安堵してられない。安心してられない」と、つい本音を吐露している。さらに、「あんなもの(八重州の国労会館)をそのままにしておいて、物わかりのいいところ(動労)だけはどけとはなんだい。労使対等ですか」と、自らの屈服がまねいたみじめな結果に消耗感をあらわにしているのだ。

危機に瀕する動労革マル一掃

鉄道労連の分裂で「一企業一組合」が完全に破産した今、動労革マルは、そのファシストとしての本性をさらけ出し、闘う労働者、国労、動労千葉、動労総連合に襲いかかり破壊する以外生きのびる道はない。

われわれは、この危機に瀕した動労革マルの本質をしっかりと見極め、解体・一掃への闘いをさらに前進させよう。動労の解散を許すな! 動労総連合へ闘う労働者は結集しよう!

労働学校に集まろう

日時 7月11日(土)10時

場所 労働者福祉センター

講師 佐藤芳夫氏

中野委員長